

第9回「東大路通歩行空間創出推進会議」 摘録

1. 日 時 平成28年3月25日（金） 15時00分～16時30分

2. 場 所 東山区役所大会議室（3階）

3. 出席者 別紙のとおり

4. 内 容

（1）開会

【開会の挨拶】

（佐伯政策監：京都市）

- ◆東大路通における安心、安全な歩行空間の創出について、皆さまの多大なるご協力を賜りながら慎重に検討を進めているところである。
- ◆今年度は、車線減少を行った場合の東大路通を含む京都市内の幹線道路における自動車交通への影響を確認するため、交通解析を行ってきた。
- ◆昨年12月の京都市議会の常任委員会のまちづくり委員会において、「東大路通の歩行空間は現状多くの課題を抱えており、車線減少を伴う歩道拡幅はその解決を図るうえで効果的な手法と考えているが、自動車交通への影響が大きいことから現状のまま実施するものではないこと」、「車線減少と歩道拡幅は、現在の東大路通の自動車交通量を大幅に抑制することが前提であり、引き続き市内全体の総量抑制や流入抑制などに中長期的に粘り強く取り組む必要があると考えており、その効果を見極めた上で、慎重に検討していくものであること」を答弁したところである。
- ◆本日の会議においては、前述の内容について、より詳細に説明をさせていただきたいと思う。

（議長）

- ◆本日は、佐伯政策監の挨拶にあったように、市の方で様々な検討を踏まえたうえで新しい方向を決めたということなので、その詳細をお聞きした上で、本日参加の皆さんと率直な議論をして、合意作りができればと考えている。

（2）議事

【事務局による資料説明】

- ・議事1「今後の取組方針について」
- ・議事2「交通解析結果について」

【質疑応答】

(議長)

- ◆交通解析の結果より、全面的に歩道拡幅を行った場合は、交通量が3割減少しても交通渋滞が発生することから、交通量全体の低減に取り組むことが必要とのことである。また、調査結果や各地区のご意見を基に、個別に工事等を進めていくと説明があった。
- ◆どの点でもよいのでご質問、ご意見をいただきたい。

(地元代表)

- ◆バスで四条通を毎日通勤しているが、四条通の歩道を拡幅した当初は、渋滞が酷かったが、徐々にスムーズに通るようになってきた。用事がなければ通るべきでないとの認識され、四条通は今後もっと良くなると思う。
- ◆東大路通においても取り組みは早いほうがよいと思う。

(議長)

- ◆四条通に他府県の車両が入ってきて、渋滞を起こしていたのではないだろうか。

(事務局)

- ◆昨年の春、他府県を中心とした車両の集中、お客様の増加に伴うバスの停車時間の増加等により、かなり大きな渋滞があった。
- ◆その後、四条通にご用のない方については、他の幹線道路に回っていただく取組、あるいはバスの乗降時間を短くする取組等により、現状、ほぼ従前と同様に市バスを運行できているという状況となっている。

(地元代表)

- ◆東大路通の2車線化には反対である。東山区は観光地であり特別な地区であるから大きな目で見えていく必要がある。

(議長)

- ◆京都盆地全体の交通量をどうやってコントロールするかが課題である。
- ◆ただ、長期的に取り組むと言われると、一体いつなのだろうと不安に思う意見があってもっともである。

(副議長)

- ◆現在は観光客が増えており、バス停付近は歩行者が車道を歩く危険な状況である。当初は、本当に2車線にすることができるか懐疑的であったが、歩行者が危険にさらされている

ことを考えると、歩行空間の確保が最優先ではないだろうか。

- ◆今回、説明のあったシミュレーションは自動車のものであるが、今後は、歩行者が車道を歩いている実態を調査するとともに、観光客が今後さらに増加した際にどの程度の歩行者が車道にはみ出るのか、シミュレーションを行ってほしい。

(議長)

- ◆観光客については、外国人客はほとんど歩きであるし、キャリーバッグを持っている場合が多いため、歩道の交通容量はもたないことが想定できる。そういった状況も考慮したうえでシミュレーションすることは重要ではないか。また、自転車についても増えてきている。

(事務局)

- ◆これまで歩行者の通行量を調査しているので、歩道の面積が足りているかの予測できると思う。バス停付近で歩行者が溢れるということは認識しているので、箇所ごとに検討を進めたい。
- ◆歩行者について、観光シーズン等のピークも考慮して検討していきたい。

(副議長)

- ◆観光客が増加しており、観光シーズンだけでなく平日でも車道を歩かざるを得ない状況であることを認識していただきたい。

(事務局)

- ◆通年で観光客が多いことを考慮しながら検討していきたい。

(副議長)

- ◆四条通と東大路通の違いを見ると、四条通は迂回路があるが、東大路通は迂回路がない。
- ◆五条から祇園まで歩くということであれば、六波羅蜜寺の前の道が歩いて楽しいところもある。あと、河原町と烏丸の間の三条通はレンガ風の舗装となり、歩いて楽しい道に変わった。歩行者や自転車に知られていないため、案内があるとよいと思う。
- ◆歩行空間を拡幅することは、継続的にゆっくり考えたほうがよいと思う。ただし、歩道が傾いていることは、急ぎで解決してほしい問題である。

(地元代表)

- ◆寺社仏閣にお参りするために来られている人たちは、迂回のしようがない。また、東山区で生活されている方は、東大路通を通らなければならない。
- ◆観光客を京都市内に集めることも大事かもしれないが、京都市内に住んでいる方がお墓

や神社にお参りに行かれることも一考していただければと思う。

(地元代表)

- ◆資料のP17に掲載されている馬町東側の歩道は、2人が行き交えできないほど狭い。
- ◆迂回するにも東大路通の東側には抜け道がない。
- ◆この歩道について50cm(最低でも30cm)の拡幅、または柵の西側への移動を要望する。

(事務局)

- ◆観光客だけの道と考えておらず、市民の皆様、利用される歩行者の方が安心、安全な歩行空間を作っていきたいと考えている。
- ◆歩道の勾配の改善については、箇所ごとの解消を目指して整備を含めて検討していきたい。

(副議長)

- ◆車線減少による歩道拡幅については、4車線か2車線かという案が出ているが、例えば、3車線という考え方がある。3車線の内、1車線は公共交通の通行に使うことや、時間帯に応じて北行きと南行きを切り替えることが考えられる。
- ◆将来の様々な可能性を見据えて、公共交通をどうするかを含めて長期的に考えていく必要がある。

(議長)

- ◆東大路通の改善を図っていくと、ハード的に思い切った事業が出てくるかもしれないので、当面は、4車線か2車線かという二者択一はやめたほうがよいと思われる。
- ◆四条通は、当初は全面的に2車線という計画であったが、最終的にはタクシーベイやバスベイ、荷捌きスペース等を設けた柔軟な設計となった。地区ごとでやるべきことが違っている可能性が高いことから、どういった議論を進めるかは、この会議で検討していただきたいと思う。
- ◆市全体としては、車の乗り入れ規制や外国人を含めた観光客の増加への対応等についても議論していく必要がある。

(地元代表)

- ◆現在、東大路通の知恩院前のところにある菊屋橋の工事の際に、東山警察署にお願いして一時的に東山三条の右折禁止を解除した。東大路通の東側にある白川西筋では、みなさんが探索で歩いておられるので、これを機会に右折禁止の解除の継続をお願いしたいと思っている。

(副議長)

- ◆交通シミュレーションは東大路通の交通量が3割減少している前提であるが、確か東大路通の3割は通過交通であるので、ソフト対策で減らせる可能性があるのではないかと。
- ◆そうなった場合にはバスベイ2台分を確保できれば、所要時間が現在のプラス3分程度でちょっと混むくらいとなる。歩行者が車道を歩くような危険にさらすよりは、みんなで3分我慢しようとしたほうがよいのではないだろうか。もちろんそのうえで東山区全体のことを考えるべきである。

(事務局)

- ◆あくまでシミュレーションということなので、他の条件により結果は変わってくるとご理解いただきたい。
- ◆東大路通では、箇所ごとに歩行者の安全を確保していくことが近々の課題と認識している。さらには点の部分を中心に繋いでいきたい。
- ◆自動車の問題については、総量抑制を含めたシミュレーションを引き続き行っていきながら、東大路通で公共交通をいかに優先して走らせるかという検討など、みなさんのお知恵も借りたいと考えている。

(地元代表)

- ◆交通解析について、影響を確認している範囲が狭いように感じる。他の道路への交通量配分を把握するのもよいが、交通規制の見直しも含めて、東大路、北大路、西大路、九条通を一方通行の環状線とすることで回遊性の向上を考えてみてはどうか。

(事務局)

- ◆市全域で交通量配分を行った上で、影響している範囲を把握している。
- ◆その上で、東大路通に特化して交通シミュレーションにて推計している。

(議長)

- ◆道の整備となると、合意形成が基本となる。住民の合意なしに前に進めない。
- ◆交通の総量対策については、市と京都府警と連携しながら、検討していただきたい。
- ◆また、箇所ごとに解決できる個別問題が随分あると思うので、この会議の場や場合によってはワークショップ的なものを地区別に開き、改善を進める必要があると思う。
- ◆道を作る際、こういう形で地域の住民の方が参加して、色々な意見が言えるのは珍しい取り組みだと思う。これからもこの機会を活かしながら、ご意見を率直にいただければ大変ありがたい。

(3) 閉会

【閉会の挨拶】

(別府委員:京都市都市計画局歩くまち京都推進室)

- ◆今後の取り組み方針の中に書いているように、素案のようなものを策定し、地域の皆様の意見をいただきながら、積み上げていくという形で進めていこうと思っている。
- ◆総合的な交通、車の交通量の問題、公共交通の問題等いただいているので、合わせてそうした取り組みを進めながら、近々の課題についてもできるだけ前に進めるような形でご相談させていただければと思う。

(以上)